

知ろう! 備えよう!

名古屋の 防災

提供 河北新報社

提供 名古屋市

提供 愛知県

平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」では、多くの人命と財産が失われました。名古屋市は被害を受けた地域の皆さんに対して継続的な支援を行うとともに、本市の地震防災対策の見直しをすすめております。

また同年9月の台風15号では、庄内川の一部が越水するなど多くの被害を受けました。

この冊子は、名古屋市がこれまでに行ってきた防災施策を

お知らせするとともに、市民の皆さんに「自分の命は自分で守る」という「自助」の大切さをご理解いただき、家族で話し合い、地震・風水害への事前の備えや対策を進めていただくことを願っております。

監修／名古屋市防災会議 地震対策専門委員会委員長
名古屋大学教授 福和 伸夫

作成／名古屋市消防局防災部防災室



名古屋市防災会議
地震対策専門委員会委員長
名古屋大学教授
福和 伸夫

平成23年は、新燃岳の噴火に始まり、東日本大震災、台風12・15号と自然の脅威を改めて思い知らされました。切迫する南海トラフ巨大地震で悲劇を繰り返さないためには、減災にまい進するしかありません。減災の基本は、自らの命は自ら守りきり、家族・地域・職場で助け合うことです。

「どんなときが危ないのか、どんな場所が危ないか」を知り、わが身を強化(耐震・家具固定・地域力)して、人間と社会の「生きる力」をつければ、巨大地震も怖くありません。

備えないことが恥ずかしいという災害文化を育み、子どもたちにこの素敵なまちを無傷でバトンタッチしましょう。

目次

- 2P わたしたちの地域を襲う巨大地震は
- 3P 東日本大震災について
- 4P 津波の仕組みと避難のこころえ
- 5P 風水害への備え
- 6P みんなで進めよう、災害に強いまちづくり
- 7P 避難所について
- 8P 事前の対策と日ごろの備え

わたしたちの地域を襲う巨大地震は

南海トラフ巨大地震の危険性と過去の発生状況

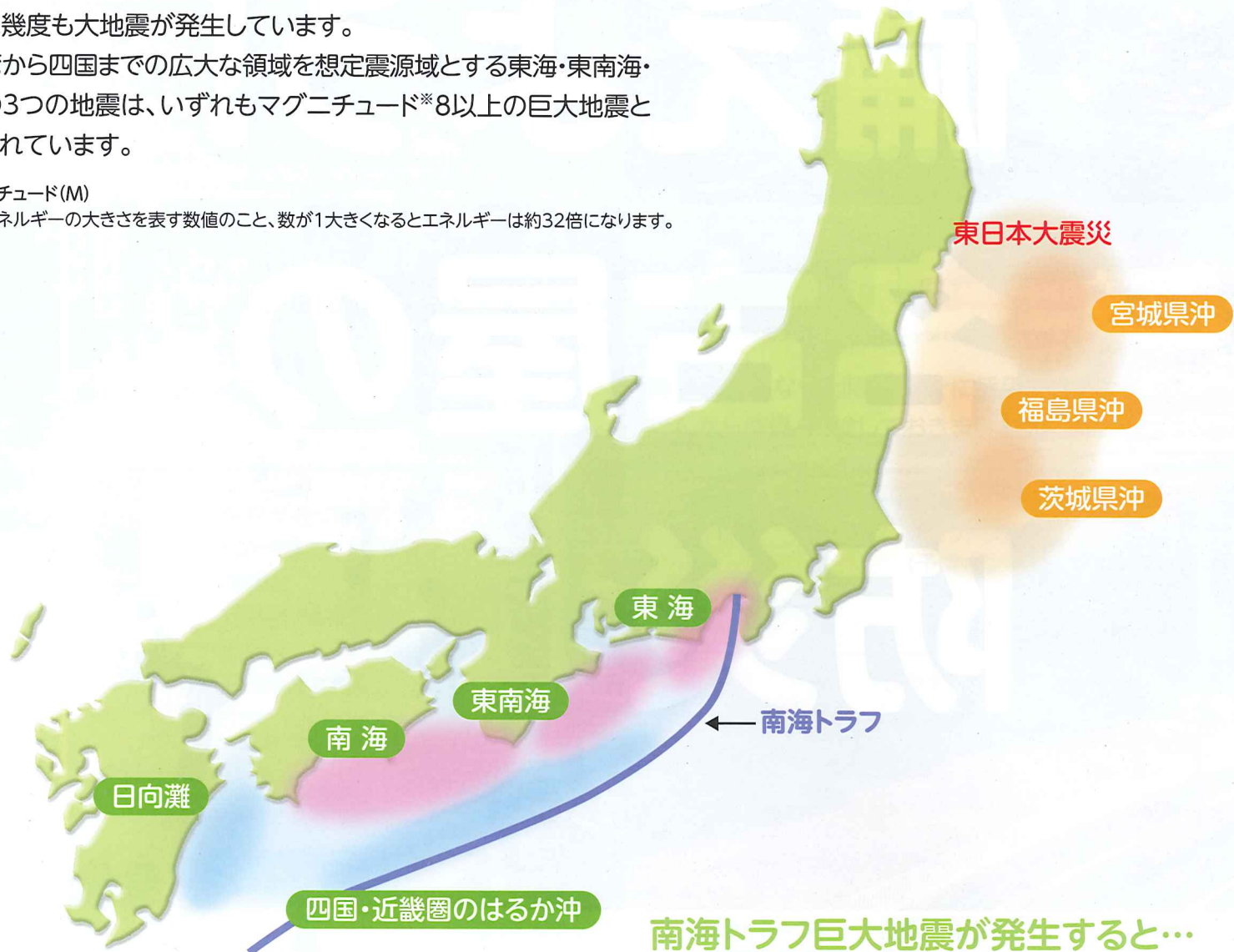
南海トラフは、西日本の南の海底にある海溝のことで、この周辺では過去に幾度も大地震が発生しています。

駿河湾から四国までの広大な領域を想定震源域とする東海・東南海・南海の3つの地震は、いずれもマグニチュード*8以上の巨大地震と考えられています。

*マグニチュード(M)
地震のエネルギーの大きさを表す数値のこと、数が1大きくなるとエネルギーは約32倍になります。

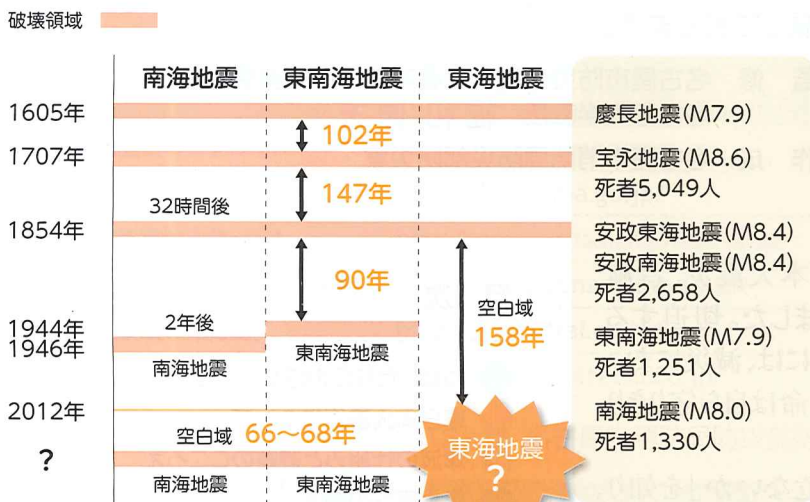
想定される5連動地震の震源域

- これまで連動地震が想定されていた震源域
- 拡大が検討されている震源域



南海トラフ巨大地震が発生すると…

- 1 強い揺れが長い時間(数分間)続きます。
- 2 高層ビルが大きく揺れることがあります。
- 3 液状化現象が広い範囲で起こる可能性があります。
- 4 沿岸部では高い津波がくる恐れがあります。
- 5 太平洋沿岸の広い範囲に被害が及ぶことが考えられ、支援が遅れるとともに、経済、産業に大きな影響がでます。



出典:平成15年12月16日 東南海・南海地震等に関する専門調査会 第16回報告

名古屋市では被害軽減のため、国・県などと連携して検討を進めております。

もっと地震のことを知りたい方は 「あなたの街の地震マップ」をご覧ください。

東日本大震災について



東日本大震災は、平成23年3月11日に発生し、三陸沖を震源とし最大震度7を観測しました。この地震により発生した津波高は最大9メートルを超えるものでした。

東日本大震災の特徴

- 1 規模・範囲ともに超大型の地震でした。
- 2 津波が想定を大きく超え、多くの人命を奪い、まち全体が壊滅的被害を受けたところもありました。
- 3 広範囲でライフライン(電気・ガス・水道など)に大きな被害が出ました。
- 4 道路の被害や燃料不足で、被災地への物資の供給に時間がかかりました。
- 5 避難所生活が長くなりました。

来るべき災害に備えて、日ごろの備えがとても重要です。

これまでの名古屋市の防災への取り組み



「津波避難ビル」の指定を進めています。

津波避難ビルは地域と行政が一体となって、想定外の津波被害から人命を守るために、一時避難場所としてのビルを本市が指定しているものです。



「エリアメール」を導入しました。

防災情報の伝達手段の多様化を図ることを目的として、緊急速報「エリアメール」により、市内・区内の対応携帯電話に緊急情報を一斉に配信しております。エリアメールでは「緊急地震速報*」、
「警戒宣言」、「津波警報」、「避難勧告」などをお届けします。



「エリアメール」を受信できない方は、
「きずなネット防災情報」に登録してください。

登録はこちらから

「きずなネット防災情報」の登録は、m.saigai@cep.jpへ空メールを送信し、返信されてきたメールの内容に沿って配信登録をしてください。

「震災対策基本方針」を策定しました。(平成23年8月)

東日本大震災を教訓として、発生が心配される南海トラフ巨大地震等に備えるため、地域防災力の向上、災害に強いまちづくりなど、当面、名古屋市が行うべき地震防災対策の方針について決めました。

「地震対策専門委員会」で検討しています。(平成23年8月から)

南海トラフ巨大地震のような広域かつ巨大な地震が発生した場合に備えて、大学の専門家などをメンバーとした地震対策専門委員会を設置し、名古屋市地域防災計画の総点検など、名古屋市の地震防災対策の見直しについて検討を行っています。

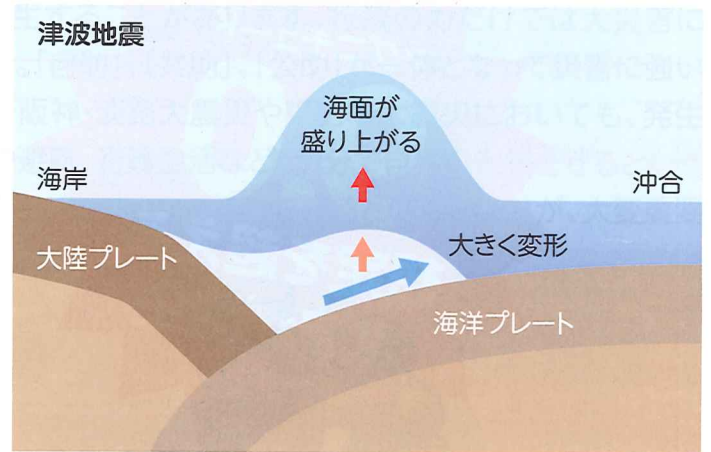
※緊急地震速報

震源付近で、最大震度5弱以上と予測される地震が発生した場合に、愛知県西部で震度4以上の揺れが予測される場合に配信される速報です。

津波の仕組みと避難のころえ

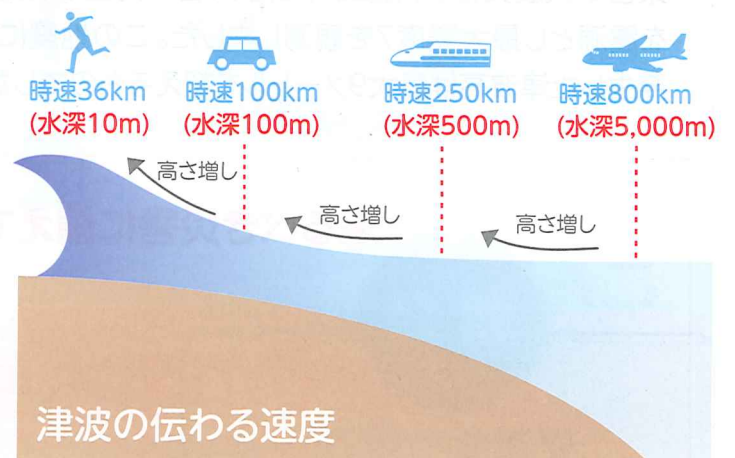
津波発生メカニズム

津波は、プレートの端がはね上がるにより、海底の地形が急激に変化することで発生します。



津波は小さなものでも大変危険です

津波は海岸近くで急激に高くなります。陸上に津波が到達した後も、走って逃げることはできないくらいの速さで押し寄せます。津波は通常の波と違い、50センチ程度の高さでも人が流されてしまい、生命に危険が及ぶ恐れがあります。



津波からいのちを守るために

次のことを守ってください。

万が一、逃げ遅れたり、近くに高台がない時などは「津波避難ビル」を利用しましょう。

- 地震を感じたら、急いで海岸や川から離れましょう。
- 小さな地震でも、津波が来る場合があります。津波の情報に注意しましょう。
- 揺れを感じなくても、**津波警報が出た時は、安全な高い場所に避難しましょう。**
- 津波は繰り返し襲ってきます。**津波警報や注意報が解除されるまで、安全な高いところで様子を見ましょう。**
- 原則として、徒歩で避難しましょう。(車での避難は控えましょう。)



もっと津波のことを知りたい方は

「あなたの街の津波避難ガイドマップ」をご覧ください。

風水害への備え

洪水が起こる原因は

洪水(外水はん濫)

堤防の決壊箇所から洪水が流れ込んできます



堤防を越えて洪水が流れ込んできます

大雨によって河川の水位が高くなると、堤防を越えて水があふれたり、堤防が決壊したりすることがあります。このような現象を「洪水(外水はん濫)」といいます。

内水はん濫



降った雨が下水道の能力を超えると浸水します

雨の量が下水道などの排水施設の能力を超えるほど多量に降った時、雨水を排水できなくなり、浸水することがあります。このような現象を「内水はん濫」といいます。

避難の情報はこんな時に発表されます

名古屋市を流れる庄内川、矢田川、新川、天白川、日光川については、河川ごとに「指定河川洪水予報」の情報が発表されます。



避難準備情報

災害の発生を予測して「避難勧告」を発令する準備段階に入ったことを表す情報

- 高齢の方や障害のある方は、自主避難をする目安としてください。
- テレビ・ラジオなどから今後の天気予報、災害情報を入手してください。

避難勧告

災害が発生する恐れがあるため、避難を勧めるために発表

- 危険の状況に応じて自宅の高層階や避難所などに避難してください。

避難指示

被害の危険が目前に切迫し、生命の危険がより高まったため、避難をしていただくために発表

- 危険の少ない場所に避難してください。
- 避難する余裕がない場合は4階以上の鉄筋コンクリート造の建物に一時避難してください。

避難のころえ

- 1 浸水がおこる前に、自宅周辺の浸水危険度を調べ、避難する場所を考えておきましょう。
- 2 避難する時は、区役所・消防機関・警察機関などの指示に従い、ラジオ・テレビ・広報車などから情報を収集しましょう。
- 3 隣近所で声をかけて、助け合って避難しましょう。
- 4 浸水深50センチ以上になると、避難に際して危険を伴うことがあります。自宅の高層階や周辺の安全な高い建物へ逃げる**垂直避難**も考えておきましょう。
- 5 浸水時に危険となる避難所は避けてください。また、小・中学校では上の階に避難することで安全が確保できる場所は、引き続き避難所として開設しています。

もっと水害のことを知りたい方は

「あなたの街の洪水・内水ハザードマップ」をご覧ください。

みんなで進めよう、災害に強いまちづくり

防災の基本理念

災害は予想以上の規模で発生することがあります。行政の力だけでは大災害に立ち向かうことができません。「自助」、「共助」、「公助」が一体となって災害に強いまちづくりを目指しましょう。阪神・淡路大震災や東日本大震災においても、発生直後に被災した方々の救出や避難、避難生活など、**自分で自分や家族を守るという「自助」、地域の皆さんや事業者が助け合っ**て地域を守るという「共助」が、大変重要な役割を果たしました。



自助



共助



公助

自分で自分や家族を守る



- 食料、水の備蓄
- 家の耐震診断・耐震改修、家具の固定
- 家族との話し合い
- テレビ、ラジオ等による情報収集
- 雨水を地中にしみ込ませたり、貯めたりする対策等

地域や事業者が助け合っ



- 地域の防災活動への参加
- 地域での訓練の定期的・効果的な実施
- 事業者と地域の連携
- 助け合っ
- 避難所運営等

行政が地域や事業者の活動を支援し、安全を確保する



- 市全体を災害に強いまちにするための総合的な対策の実施
- 「自助」「共助」の進め

防災情報は自ら入手しましょう

地震や大雨などの災害が発生した時、または災害が発生する恐れがある時は、防災に関する情報を、テレビ・ラジオだけでなく様々な手段で市民の皆さんにお知らせします。

テレビ・ラジオ等



ホームページ



エリアメール



電子メール
(きずなネット防災情報)



防災スピーカー



広報車・消防車等



避難所について

避難所開設の時期は

地震、風水害などにより、住宅が壊れたり失われたりするなどして生活ができなくなった時、あるいは、被害を受ける恐れがある場合に、一時的に避難するために設置されます。

避難所運営のルール

避難所は、避難者の中からリーダー（区政協力委員等）を選び、リーダーのもと、「市の職員」及び「施設管理者」の支援によって自主運営します。

避難所生活の心得

避難所では、大勢の人がともに生活しなければなりません。不自由な生活を少しでも良くするために、皆さんで協力することが必要です。



避難所にある設備など



防災備蓄倉庫:市内の小中学校に設置されている屋外の防災備蓄倉庫(左)と屋内の防災備蓄倉庫(右)

防災備蓄倉庫にある物資

物資名	1施設あたりの数量
乾パン	256食
アルファ化米おかゆ	50食
毛布	50枚
日用品セット	50組
仮設トイレ	1~3基
地下式給水栓資器材(小学校のみ)	1セット

必要なものは次ページを参考にして、自分たちでも準備しておきましょう。



下水道直結式仮設トイレ:避難所のトイレが使用できない場合に設置するトイレです。



地下式給水栓:市内の全小学校に設置されており、水が手に入ります。

もっと避難所のことを知りたい方は

「あなたの街の避難所マップ」をご覧ください。

事前の対策と日ごろの備え

家族防災会議

もしもの時のために、家族全員が無事であるために災害が起こったらどうするのか、災害にどう備えるかなど、いろいろな場面を想像して、家族間の取り決めを話し合ってください。家具の耐震固定、災害発生時の連絡方法や集合場所、備蓄品と非常持出品の準備などをあらかじめ話し合っておきましょう。また、各種ハザードマップを活用して家の周辺の危険な場所を調べておきましょう。



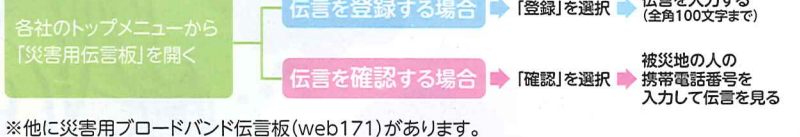
家族の安否の確認方法

災害用伝言ダイヤル
171 のかけ方

災害発生時(震度6弱以上の地震など)にはNTTの災害用伝言ダイヤルサービスが稼働します。被災地への通話がつながりにくい場合に、家族や友人などの安否の確認や連絡などに活用できます。



携帯電話「災害用伝言板」



※他に災害用ブロードバンド伝言板(web171)があります。

備蓄品・非常持出品の準備

避難が必要になった時に、すぐに活用できるように、ふだんから準備・点検しておきましょう。

備蓄品

災害に備えて用意しておきたいもの

- 保存がきく食品 (自分が食べやすいもの)
- 常備薬 (持病の薬を含む)
- 飲料水 (ペットボトル)

防災用品

- 給水用のポリ容器・バケツ
- ロープ
- のこぎり・工具など

寝具等

- 毛布

燃料

- カセットコンロ (予備ボンベ含む)

便利用品

- ドライシャンプー

非常持出品

避難が必要になった時に備えて用意しておきたいもの

1人1日3リットルが目安です。また、水分の多い食品(ゼリーなど)と組み合わせることで、量を減らすことができます。

7日分用意しましょう

内3日分持参しましょう



防災用品

- 携帯ラジオ
- ヘルメット
- 軍手
- マスク
- 貴重品**
- 現金(小銭も必要)
- 預(貯)金通帳の写し
- 健康保険証・免許証の写し
- カード類
- 認印・印鑑など

照明等

- 懐中電灯 (電池含む)
- マッチ・ライター
- 医療用品**
- 包帯・ガーゼ
- ばんそうこう
- ウェットティッシュ (ティッシュ)
- お薬手帳の写し

食器類

- はし・スプーン
- 紙皿・紙コップ
- 衣料品**
- 衣類(着替え)
- タオル(大小2種類)

その他

- (個人的に必要なもの)
- 粉ミルク
- 紙おむつ
- 生理用品
- 予備のメガネ・補聴器など

便利用品

- 筆記用具
- 新聞紙
- 携帯用トイレ
- ゴミ袋
- キッチン用ラップ
- 使い捨てカイロ
- 雨具
- 手動携帯電話充電器

知っておくと便利です。災害情報入手先一覧

名古屋市公式サイト	http://www.city.nagoya.jp/	近畿日本鉄道	http://www.kintetsu.co.jp/
気象庁/防災気象情報	http://www.jma.go.jp/	日本道路交通情報センター	http://www.jartic.or.jp/
名古屋市市営地下鉄・バス	http://www.kotsu.city.nagoya.jp/	中部電力	http://www.chuden.co.jp/
名古屋臨海高速鉄道(あおなみ線)	http://www.aonamiline.co.jp/	東邦ガス	http://www.tohogas.co.jp/
東海旅客鉄道(JR東海)	http://jr-central.co.jp/	NTT西日本	http://www.ntt-west.co.jp/
名古屋鉄道・バス	http://www.meitetsu.co.jp/		

○この冊子に関するお問い合わせ 名古屋市消防局防災部防災室 電話052-972-3522

市の職員が皆さんのところにお伺いして、お話をさせていただく「市政出前トーク」もご利用ください。

「市政出前トーク」のお申し込み・お問い合わせ先

名古屋市公式サイト <http://www.city.nagoya.jp/>
市長室広報課 電話052-972-3132 各区役所まちづくり推進室